

四万十町の新しい文化的施設

まちの文化が流れ、人にひらかれ、人が集まる四万十駄場



「四万十大正あゆまつり」に出展！ 移動図書館車と一緒に「蛇紋岩」を集めました！

8月20日、大正新橋下の川原で開催された「四万十大正あゆまつり」に移動図書館車や文化的施設体験ブースを出展してきました。

文化的施設体験ブースでは、ボードゲームコーナーのほか、STEAM教育の観点から、不思議な特性を持った「蛇紋岩」の特集コーナーを設置しました。ここでは、川原の石や鉱物等に関する書籍を展示したほか、実際に蛇紋岩を使った簡単な実験を通じて石の特性を学ぶことができました。川原で蛇紋岩探しを楽しむ方もいて、普段何気なく見ている「石」にもそれぞれ特性があることや、川と川のつながり・地層といった地域の自然環境について、関心を持っていただくきっかけになったのではないのでしょうか。

また、移動図書館車では、本の貸し出しに加え、川・魚に関するテーマ展示や、絵本作家で移動図書館車のデザインを手がけたヨシタケシンスケさんの特設コーナー、あゆまつりにちなんだ小道具を

使って写真が撮れるコーナーを設置しました。暑い中でのイベントでしたが、ご来場の皆さんにとって夏の終わりの楽しい思い出になっていたら嬉しいです！



少し緑がかったヘビのような様様が特徴の石。四万十川上流の梶原町に蛇紋岩を含む地層があることから、蛇紋岩は梶原川を經由して四万十川に流れ着いていると言われています。

蛇紋岩クイズ

蛇紋岩の特徴は次のうちのどれかな？

1. 暗闇で光る
2. こすると煙が出る
3. 磁石がくっつく

答えは裏面へ！

詳しくは図書館で調べてみよう！

2023.9.25 発行

特集 No. 27

発行 | 四万十町役場

企画課 文化的施設整備推進室(0880-22-3124)

四万十町教育委員会 生涯学習課(0880-22-3576)

担当 | 大河原・嶋岡

匠の技で四万十町ゆかりの作品を後世へ

絵画の修復作業を進めています！



作家が神様！

作品をそのまま残していくことが

修復家の役割です

絵画修復家 大原秀之先生のご紹介

吉備国際大学名誉教授、大原美術館理事。絵画の修復作業やゴッホ、フェルメール等の国際的な展覧会の作品保全を担う専門家。

修復作業見学会を開催

四万十町では、昨年度から今年度にかけて収蔵品の点検作業を進めており、今年度は点検に加えて作品の修復作業を行っています。

8月18日(金)には、町立美術館で絵画修復家の大原秀之先生による、絵画作品・油絵の修復作業の一部を公開した見学会を開催しました。今回は収蔵作品の中でも緊急度の高い作品7点を対象に、これ以上傷みが進まないよう、絵の具が剥がれかかっている部分等を特殊な接着剤を使って固定する作業が実施されました。

当日は、町民の方や県内の美術館関係者等、約10名の方が参加され、参加者の方からは「絵画の修復、保存がこんなに大変とは知らなかった」「美術館の裏側でこんなに愛情込めて手入れしてくれる人がいることを知れて嬉しかった」といった声が聞かれました。

専門家による
収蔵品修復の流れ(例)

1. 収蔵品の状態の点検
2. 修復する作品の選定
3. 修復方法の検討
4. 修復作業の実施

- ① 修復方法、段取りの確認
- ② 現状以上の傷みを防ぐために接着剤等で固定
- ③ 傷んでいる箇所と周辺の凸凹の調整
- ④ 色彩の調整
- ⑤ 表面の保護
- ⑥ キャンバスの裏板の設置

適切な環境での
保管管理、展示へ



修復の様子

修復家「お医者さん

大原先生にとって、修復家の仕事は「絵画のお医者さん」。縁の下の力持ちとして、普段は表に出ることはありませんが、作品が病気になるって(傷んで)しまった際に治したり、作品をできるだけ良い状態のまま保全・展示するためには大変重要なお仕事です。「病気になる人がいないように、作品も傷んでしまう。後世に残していくためには、修復は絶対に必要なもの」と修復の意義を解説していただきました。

「オリジナル」を守り、
伝えるために

修復を行う上で重要なポイントには、「オリジナルを損なわないように行うこと」。何年経っても後から付け加えた絵の具は取れるように、水溶性の絵の具を使って作業をされています。また、修復方法に決まりはなく毎回試行錯誤の連続とのこと。時には医師や科学者と連携し、人間のレントゲンで写真を撮ったり、科学的な分析を行い、作品の構造を調べてから修復作業に入ることもあるそうです。

文化的施設では、限られた収蔵スペースの中でも将来にわたって安定的な運営を行っていかれるよう、作品の受け入れからその後の管理についても適切に判断・運用していけるように準備を進めています。今後も大原先生のような「匠」の力を借りながら、四万十町ゆかりの作品をしっかりと後世へ受け継いでいきたいと思えます。

文化的施設へのメッセージ



～令和6年度に新たな装いで文化的施設がオープン～

令和6年度に新たな装いで文化的施設がオープンすると聞き、今からワクワクしています。それも一つの施設の中に、図書館、美術館、展示、コミュニティが併設されているのですから、四万十町の子どもたちにとってもこれは素晴らしいことです。ここで育っていく子どもたちは実物の絵画や文化を直に目にして肌で吸収します。知識だけでなく感性を磨きます。その結果、この子どもたちはきっと気遣いの出来る心優しい人間に育っていくことでしょう。この町の将来がとても楽しみです。子どもたちは四万十町の財産です。

【9月13日 絵画修復家 大原秀之さんより】